

常設展の展示物を調べてみよう

2年__組 氏名_____

- 1 今から2万年前、日本列島と大陸とは陸続きになっており、さまざまな動物が日本列島に渡ってきました。

中国大陸やシベリアから渡ってきた野生動物を、それぞれ3つ書きなさい。

- ① 中国大陸（ヘミオンウマ、ヤギユウ、ナウマンゾウ、オオツノシカ）
 ② シベリア（ヒグマ、エゾオオカミ、マンモス、ヘラジカ）

- 2 次の文の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) 貝塚は縄文人のゴミ捨て場といわれてきましたが、そこはいきものの魂を送り出し再生を願う場所でした。安城市堀内町にある縄文時代晩期（2700年前）の（堀内）貝塚からは動物の骨や魚の骨や、また、海で採取した（ハイガイ）やアサリの貝殻や、川で採取したシジミやカワニナなどの貝殻が見つっています。

(2) 弥生時代後期（有名な邪馬台国、女王卑弥呼のころ）、人の顔が描かれた土器が安城市東町の亀塚遺跡で発見されました。

- ① この土器を何と言いますか（人面文土器）
 ② 中国の歴史書で、倭の国（日本）のことを書いた（魏志倭人伝）には、「女王国」（女王卑弥呼の国）のことや、「男子無大小 皆鯨面文身」などが書かれている。この__文の意味は「男性は大人も若い人も、皆 鯨面（入れ墨を入れた顔）文身（入れ墨を入れた体）をしている」とのことである。



国指定重要文化財

(3) 弥生時代中期以降は鹿乗川流域の遺跡の数も増え、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて（本神）遺跡（古井町）、彼岸田遺跡・中狭間遺跡（桜井町）、下懸遺跡（小川町）、惣作遺跡（寺領町）などが知られており、西三河を代表する集落に発展していったと考えられています。

(4) 安城市桜井町とその周辺には前方後円墳・前方後方墳を中心に22基の古墳が分布し、桜井古墳群と呼ばれています。矢作川流域で（2）番目に大きい二子古墳は、（前方後方墳）の形をしており、全長68.2mあります。

3 右の像の人は、日本に仏教を取り入れ、法隆寺を建て仏教を広めた人です。お坊さんの姿を（16歳）をしているのは、仏教賛成反対の意見の中で病気になったお父さん（用明天皇）を看病し、病気が治るように祈っている像です。

・右の像の人は誰でしょうか。（聖徳太子）



4 応仁の乱の戦火がひろまりつつあった1471年（文明3年）ころ、松平信光は盆踊りの奇策で戦わず安城城を手に入れ、三男の親忠を城主としました。こうして親忠にはじまる安城松平家は各地に分家を置き、四代清康が岡崎に移るまでの50年間、三河国の有数な勢力を築きました。

安城城四代の城主を右の から選んで書きなさい。

初代城主（松平 親忠） 二代（松平 長忠）
三代（松平 信忠） 四代（松平 清康）

広忠	信忠
清康	家康
親忠	長忠

5 松平（徳川）家康は、1560年桶狭間合戦の後、岡崎城にもどり、三河国の一国支配をめざしました。そのため大きな勢力をもっていた三河三ヶ寺を中心とする真宗教団と対立し、ついに1563年一揆が起きました。家康の家臣には少なからぬ一向宗（真宗）門徒がおり、戦いは6か月ほどで続きましたが、一揆側が家康に降伏し和議が成立することになった。

次の（ ）の中に言葉を入れなさい。

- (1) この一揆を何と言いますか（一向一揆）
- (2) 三河三ヶ寺は、岡崎の上宮寺、勝鬘寺と、安城の野寺の（本證寺）である。

6 石川丈山に関わる次の文を読み、（ ）の中に言葉を入れなさい。

石川丈山、三河時代から徳川家に仕えた石川家に生まれました。初めは武士としての道を行っていたが、以前からあこがれていた学問の道に進みました。しかし、母の孝養（面倒をみる）のため広島の浅野家に仕えました。母親が亡くなると、京都一乗寺の（詩仙堂）で隠棲生活を送ります。また、この庭は丈山自らが造ったもので有名です。安城市和泉町には、丈山ゆかりの施設、「丈山文庫」や「丈山苑」があります。



石川丈山の肖像画

7 安城松平氏の発展

安城城（『新編安城市史』による）は、室町時代の半ばころに築かれた平山城（ひらやまじろ：平野の中の小高いところなど自然の地形を巧に利用して建てられた城）でした。当時の城は、周囲に堀や土塁（どるい：敵や動物などの侵入を防ぐために築かれた土製の堤防状の壁）をめぐらし、その中に城主の館や武器庫、食糧庫、物見櫓（ものみやぐら：見張り台）などを建てた、とりでのようなものでした。高い石垣や天守閣がつけられるようになったのは、戦国時代末期からです。

安城城については、諸説ありますが、文明3年（1471）、松平氏3代目の信光が奇策を用いて奪って以来、その子の親忠、長忠、信忠、（清康）（家康の祖父）までの4代の間に、三河一帯に勢力を伸ばし、各地に松平一族が分立していきました。

そして、清康は、岡崎城を奪い、本拠地を安城城から（岡崎）城へ移しました。



左写真：諸国古城之図（広島県浅野家文庫 江戸時代）

上写真：家康の祖父である松平清康像 所蔵 随念寺）

8 碧海台地は、やせ地のうえ、水の便も悪い土地でした。安城市和泉町の酒造業を営む（都築弥厚）は、碧海台地に矢作川の水を引いて土地を開く計画を立て、1827年（文政10年）江戸幕府に「新開願書」を出しました。しかし、領主たちは開墾地が幕府領になるために、また、農民も生活にかかわる入会地が減ることや、低地における排水のことなどで反対しました。計画は行きづまり、借財の残したまま亡くなりました。

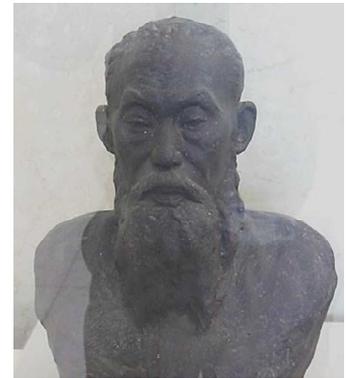


この計画を引き継いだのは、碧海郡大浜村（碧南市）生まれの（岡本兵松）でし

た。明治政府や県に対して、用水路を開く願いを出しました。

いっぽう（伊予田与八郎）は、栗寺村（豊田市）はじめ7か村の排水路を開く願いを出しました。県はこの二つの計画をあわせて、お互いを協力させて用水路を開く計画を進めました。1879年工事が始まり、1880年に工事が完成したのち、この用水を（明治用水）と名付けました。

- 9 1901年、県下最初の農学校の愛知県立農林学校が開校しました。その初代校長の（山崎延吉）は、すぐれた教育者であり、農政者としても著名でした。彼の「農業は国の基本である」という考えを、一般社会にも広めようとして、農民・農村教育に力を尽くしました。そして、全国の講演回数は1万5000回におよびました。



- 10 明治用水によって農地が広がり、二毛作ができるようになり、稲の裏作として麦やレンゲ（ゲンゲソウ）などが作られました。米麦以外には、（養鶏）・養蚕・蔬菜作・果樹栽培などが行われ、農業経営の（多角化）が図られました。これらの農産物は産業組合を通して共同販売され、農家の現金収入がもたらして、農業経営は安定しました。

- 11 1920年～1930年にかけて、碧海郡地方は（「日本デンマーク」）と呼ばれるようになりました。それは、農業経営の多角化や産業組合の発達したようすが日本農業の模範とされ、デンマークが農業先進国であったことからこの名がつけられました

- 12 次の年表をうめなさい。

- 1889年（明治22年）、東海道本線全線が（東京－神戸間）が開通しました。
- （1891）年（明治24年）、明治新田に安城駅が開業しました。開設当時の駅周辺は、農家が6軒ほどしかありませんが、駅前に人力車の会社ができ、旅館・長屋が建てられ、町がつくられてきました。
- 1945年（昭和20年）1月、（三河）地震がありました。当時は太平洋戦争末期だったこともあって、地震の被害は報告されず、物資不足も手伝って、復旧は進みませんでした。
- （1952）年（昭和27年）、安城町から安城市となりました
- 1988年（昭和63年）、東海道新幹線（三河安城）駅が開業しました。